

## クイズの答え

### Q 1 …… B

茨城の民話では、『だいだらぼう』と呼ばれています。

茨城県には昔、巨人が住んでいて、山を動かしたり池や川をつくったりしたといわれています。水戸市にある大串貝塚（おおくしかいづか）は巨人が食べた貝が積もってできたという話が今でも語り伝えられています。

### Q 2 …… A

土偶（どぐう）と呼ばれ、粘土を焼いて作ったもの。女性を形どったものが多く、安産に関する祈りに使われていたのではないかと考えられています。

茨城県内では、利根町にある立木（たちき）貝塚からたくさんの土偶が発見されています。

### Q 3 …… C

石室内の壁には朱色で描かれた絵があり、このような古墳を装飾古墳と呼んでいます。この虎塚古墳は茨城県から福島県にかけて分布する装飾古墳の代表的なものとして有名です。石室内の壁に絵を描く特徴は、九州地方のものと共通しており、畿内（今の大阪や京都など）を飛び越えてこの地方に広まったと考えられています。

### Q 4 …… A

正式な名前は、金銅製馬形飾付冠（こんどうせいうまがたかざりつきかんむり）といいます。行方市にある三昧塚古墳（さんまいづかこふん）から発見され、埋められた時に死者の頭に付けられていたと考えられています。馬の形と木を交互に飾り付けたり、独特の模様でデザインされていたりして、とても独特な形の冠です。茨城県指定文化財になっています。

### Q 5 …… A

聖武（しょうむ）天皇が、仏教の力で全国の混乱をしずめるために、国ごとに国分寺と国分尼（に）寺を建てることを命じました。常陸国は今の石岡市に建てられました。ですから、当時の常陸国の中心地は石岡であったということです。また、その近くからは東北地方の平定に必要な武器や武具などを作るための工房（鹿の子遺跡）も発見されています。